

県下で初

木材流通システム構築

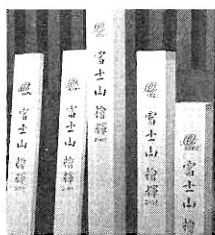
県内工務店とブランド化、地球環境にも配慮
製材業者ら

県内の住宅工務店をつくる富士山木造住宅協会内の10社と製材業の富士ひのき加工Ⅱ富士市大淵Ⅱ、プレカット事業のマルダイⅡ同Ⅱはこのほど、富士ひのき材の管理流通システムを構築し『緑の循環』認証会議（SGEC）認証を受けた。地元木材を地元の住宅建設に振り向けるネットワークの立ち上げで、地球環境に配慮した家作りの普及につなげる。



発表会に参加した県内の工務店関係者など

富士山「松輝」のブランド名



認証が下りたのは3月末。製材業から工務店まで一体化した事業体が同認証を受けたのは県下で初めてで、全国でも珍しいという。木材の調達先は同認証をすでに受けている日本製紙木材の北山社

有林670ヘクタール。同社の協力を得て、木材流通の川上から川下まで一体で管理する流れが出来上がったことになる。同事業体をつくる森林認証材委員会（委員長・渡邊泰敏建築工房わたなべ社長）は、流通システムで利用される富士ひのきの建材を「富士山「松輝」（ひのき）」として独自にブランド化。

同建材を一定の基準以上使用した住宅は「森林認証システムの家」として認め、品質保証とともに、人工林の有効活用につながり二酸化炭素（CO₂）削減にも役立つ家作りを消費者の新しい選択肢として訴えていく。同認証は林業団体や

環境NGOなどが設置。認証には国際的に通用する基準が取り入れられ、取得後は持続可能な森林経営や環境問題への貢献も期待されている。

24日には、富士市平垣本町のホテルグランド富士で「同認証取得発表会」が開かれた。渡邊委員長は「流通システムにより人工林の間伐と植林を繰り返し緑の循環が生み出せる。木材の国内自給率は20%。輸送にはCO₂

も排出される。外国産の木材から国内産、地元産へと徐々に変えていきたい」と話した。富士市内で同事業体に加入しているのは次

の工務店。
▽建築工房わたなべ（石坂）▽LOHAS（中央町）▽エコフィールド（松富町）▽澤田建築（鈴川西町）